

議題1. 南海トラフ巨大地震への具体的な備えについて

- 1) 危機管理局の設置によって、横断的な防災・減災対策はどのように充実されるのか。
- 2) 南海トラフ巨大地震の被害想定では、本市の死者は1,800人という。圧死防止のために「家具転倒防止」に官民あげて取り組むべきではないか。
- 3) 住民の避難路確保のためには、あらかじめ市が把握した倒壊のおそれのある家屋の対策に計画的に取り組むべきではないか。
- 4) 木造住宅密集地では、空き地ができた際には、小さくても防災公園・防災空間として確保していくべきではないか。
- 5) 市民まるごと防災訓練では、市の情報収集力が脆弱であることがわかった。市職員によるバイク隊・自転車隊をつくり、平常の通勤時から情報収集に備えないか。
- 6) 倒壊家屋から住民を救助するために、バールやジャッキ数本を収めた「お助け倉庫（防災倉庫の簡便版）」を要所要所につくらないか。設置には民地の協力も求めていくことも考えてはどうか。
- 7) 屋外設置型の消火器を全町内に増やしていくべきと思うがどうか。
- 8) 安城市では、26年度に小・中学校の避難所に「ぽっとんトイレ」が設置される。西尾市でも設置していかないか。
- 9) 給水車は、寄附頼みだけではなく、市でも少なくとも、もう1台予算化して増やすべきではないのか。
- 10) 消防団は、操法訓練よりももっと実践的に、巨大災害に備えた救出・救援訓練を行うべきではないか。